

第二十六回（令和二年度）

# 令和独楽吟

橘曙覧 顕彰短歌コンクール

第二十六回（令和二年度）令和独楽吟・橘曙覧顕彰短歌コンクールについて

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。曙覧が詠んだ一連の作品として『独楽吟』どくらくぎんがあります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた五十二首の連作の短歌で、貧しいながらも心豊かに日々を暮らしていた、曙覧の様々な楽しみが詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇后陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいで昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用されたことで、曙覧と代表作の『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より「平成独楽吟」と称し、曙覧の『独楽吟』の世界に学び、何気ない日常の中で感じた身近な楽しみ、ささやかな楽しみを詠んだ短歌の募集を始めました。前回の第二十五回より、令和への改元に伴い、「令和独楽吟・橘曙覧顕彰短歌コンクール」と名称を改め、「独楽吟部門」とあわせて「万葉集や実朝以来の歌人」と正岡子規に絶賛され自由な短歌を好んだ曙覧にちなみ、「自由短歌部門」の募集もしています。

今回、独楽吟部門に六九八六首、自由短歌部門には一二四三首、両部門で八二二九首のご応募をいただき、一二四校より学校単位での応募がありました。新型コロナウイルスの影響により、私たちの生活が大きく変化している中で、応募作品には、今までにはなかった新しい「たのしみ」を詠んだ作品も見受けられました。たくさんのご応募、ありがとうございました。

ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

審査員

独楽吟部門

市村 善郎（審査員長）

橋谷 桂子

佐孝 石画

足立 尚計

審査員

自由短歌部門

福島 泰樹（審査員長）

加賀 要子

喜多 昭夫

足立 尚計

主催 福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会

共催 福井新聞社・NHK福井放送局

後援 福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ・

福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会

協賛 熊本市

独楽吟部門

橘曙覧賞

たのしみは失敗しても父さんが頭ポンポンなぐさめるとき

広島県 光岡

碧

独楽吟部門 入賞作品

福井市長賞

たのしみは射法八節姿勢良く射場にひびく弦音鳴る時

福井県 高橋 未央那

福井市教育委員会賞

たのしみは仲間といっしょに打つ太鼓最後にびたりと息そろろう時

福井県 東 麻衣

福井新聞社賞

たのしみは半紙の上に筆おいて最後のとめを書き終えた時

福井県 木村 悠生

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみは冬のあしたにふつつつと真白き飯の炊きあがるとき

奈良県 古山 陽一

福井中央郵便局長賞

たのしみは無理だと言ったさかあがりまわる瞬間見届けたとき

福井県 竹川 文香

熊本市賞

たのしみはタッパ―持って実家行き母さんの味詰めてもらうとき

福井県 齋藤有紀

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみはパパと行ってたお寿司屋でいつか自分がお金出すとき

福井県 鰐淵璃星

学校賞

広島県 広島大学附属三原小学校

福井県 越前市武生南小学校

たのしみは期待されない男飯今日は美味しいと娘言うとき

兵庫県 田村 宏幸

たのしみは母といっしょに料理して家族の笑顔見えてきたとき

福井県 安井 美結

たのしみは桜吹雪へ手をあげて溺れてしまふ妻を見るととき

神奈川県 北村 純一

たのしみはずっと待ってた行列で自分の番に物を買う時

福井県 大森 未玖

たのしみはいつも会わない父さんがにもつをもって帰ってくる時

神奈川県 和泉 咲良

たのしみはおじいちゃんがあたまだけがめんにつりほっこりする時

広島県 小川 裕加

たのしみは雨の日そとでてかささしてぽつぽつゆかいな音をきくとき

神奈川県 石田 桜子

たのしみはぶらり大工がやって来て夢を形にしてくれるとき

福井県 前川 清一

たのしみは先ぱい着てるセーラー服新たな自分むかえるとき

福井県 吉田 愛唯

たのしみは祖父の家行き窓あけて色あざやかな桜見るとき

福井県 竹内 結愛

たのしみは真っ赤にそまる空の下ゴールネットがゆれている時

福井県 田中音弥

楽しみは朝一番のごあいさつみんなに「おはよ」先に言う時

兵庫県 香川心陽

たのしみは理科の実験やってみて自分の班だけ成功したとき

兵庫県 細野由莉

たのしみは君臨したる女王様彼岸花見て感動するとき

福岡県 安部可純

たのしみはもう会えないばあちゃんが好きだったお茶ごくと飲むとき

広島県 佐川理緒

たのしみは笹舟つくれとせがまれて子ら車座に胡座かくとき

福井県 木内利栄

たのしみは大きな文字でかく孫のえがおがかぶ手紙よむとき

栃木県 高梨英子

たのしみは朝起きながお荒島の背に陽をあびた勇姿見るとき

福井県 金森知子

楽しみは反抗期の娘が後部席ポツポツ話す10分の時

福井県 和田慎子

たのしみは数ある市販のマスクより我が手作りを君が選るとき

三重県 堀江寛子

自由短歌部門

橘曙覧賞

病床のわれにリンゴを食べさせるあかぎれの手の妻に触れてる

東京都 野村信廣



自由短歌部門 入賞作品

福井市長賞

雑踏をすり抜けるワザ身につけた四十年の通勤終える

大阪府 畑中秀一

福井市教育委員会賞

オールを入れる 水は一瞬仰け反って牡丹のやうにまた閉ぢてゆく

愛知県 渡邊美愛

福井新聞社賞

冬帽のへこみやすきを膝にのせふる里行きの列車にひとり

神奈川県 中嶋恭子

日本放送協会福井放送局長賞

山茶花の咲く庭夫よ見えますか十七回忌の秋深み行く

福井県 齋藤幸子

福井中央郵便局長賞

水中にかかと揃へて蹴伸びせば身に流れくる魚でありし日

福井県 坪田まゆみ

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

胸に抱く仄温かな骨箱は父の遺した最後のぬくもり

岡山县 信安淳子

躊躇いもなく親の手を握る子のもうしばらくは我の子であれ

三重県 田中 亜紀子

妹と爪のネイルを見せ合えば曲がった指のなぜか似ている

神奈川県 長橋 すま子

君だけに会いに来たのに君がいるクラスを通り過ぎてく立夏

佐賀県 小島 涼 我

戦地へもヨーロッパへも行きし父最後に履かす真白き足袋を

京都府 田久保 ゆかり

偶然という名の奇跡を積み重ねなんてことない今日がまた来る

京都府 松本 俊彦

コロナ禍に逝きたる友の葬儀には出席できず星空仰ぐ

北海道 藤林 正則

外出の自粛に伯母はへこたれぬ防空壕を想えば易し

千葉県 堀 卓

夕焼けの空を泳いでいるような茜色した金魚をください

神奈川県 河野 未瑛

電卓の実務試験の結果待つ教へ子十五我は五十五

群馬県 竹上 晶子

コロナ禍にビデオ通話で逢ふ友は赤道越へても絆はふかし

オーストラリア 新ヶ江 英子

豆苗のやうに実らぬ恋を経て少女は髪をまた伸ばしけり

愛知県 志村紀昭

読書をし暑さとはなれ集中だページをめくる夏の風たち

愛知県 片山杏

幸せの手本のごとく生け垣に干されてみたり兎の靴二足

東京都 西出和代

アルバムの集合写真のなかでさえ君を目で追う十五のわたし

大阪府 東本幸子

馬鈴薯のつぶら次々踊り出で黒き大地は水蒸気吐く

愛知県 横井和幸

キスをするみたいにしてLINEスタンプを押して目を閉じ返信を待つ

三重県 宮崎紘陽

手に取りし抗癌剤はピンク色ひと際大きく今日から始まる

兵庫県 加島清子

逆上がりできるまではと粘る子を照らす日差しが夕日に変わる

千葉県 小林功

父よりの形見分けなる腕時計かくもか細き腕でありしか

滋賀県 船岡房公

人生に疲れし足を浸しつつ水の香を聴く故里の川

埼玉県 松下喜彦

独楽吟部門 総評 審査員長 市村善郎

選を終えて

第二十六回（令和二年度）令和独楽吟独楽吟部門には六九八六首の作品が寄せられました。このことは六九八六の「たのしみ」を寄せてくださったということ、泉下の曙覧さんも喜んでおられるだろうと私も「楽しく」なります。ただ、この中から、入賞・秀作の作品を二十八首選ぶ作業は、いつものことながら楽しいだけではありませんでした。

「たのしみは……とき」という形を保持しながら一首にまとめることはなかなかの作業です。発見した喜びの先の「たのしみ」を想像させてくれる歌がいいと私は思い、そういう歌を選んできました。他の審査員の方もそれぞれの基準線を引きながら選考をしています。選出された作品を読みながら、読後に広がる「たのしみ」の世界を想像し、立ちあげて、自分の思いと重ねてください。自分の中に広がる新しい「たのしみ」を発見できるでしょう。

受賞作をふり返ると小学生の作品が多いようです。大人たちが忘れかけている感動を発見してくれたことが要因だったようです。素朴な、何気ない発見をこの機会に共に楽しんでいただければと存じます。

自由短歌部門 総評 審査員長 福島泰樹

なにをもつて選考の基準としたか、「講評」を記しながら、そのことを疼くように思った。

それは、「オールを入れる 水は一瞬仰け反って牡丹のやうにまた閉ぢてゆく」（渡邊美愛）、「水中にかかと揃へて蹴伸びせば身に流れる魚でありし日」（坪田まゆみ）、「夕焼けの空を泳いでいるような茜色した金魚をください」（河野未瑛）、「馬鈴薯のつぶら次々踊り出で黒き大地は水蒸気吐く」（横井和幸）などの諸作は、「入賞」「秀作」よりは、「最優秀賞」の名に相応しかったのではないかという想いである。

しかし、最優秀賞である「橘曙覧賞」は、一作品にしか与えられない。であるならば、歌人橘曙覧の歌への想い、その詩精神に立ち返らなければならない。それは生きて在るといふことの喜び、生活の慈しみではないだろうか。

以上のことから、「山茶花の咲く庭夫よ見えますか十七回忌の秋深み行く」（齋藤幸子）、「胸に抱く仄やかな骨箱は父の遺した最後のぬくもり」（信安淳子）の二作に心を残しながら、の決定となったのである。

〈独楽吟部門〉旧名称 平成独楽吟部門

橘曙覧賞受賞作品 (第16～25回)

第25回 (令和元年度)

神奈川県 井上 靖

たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるととき

第24回 (平成30年度)

山形県 湯乃村紘一

たのしみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき

第23回 (平成29年度)

福井県 丸岡里美

たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるととき

第22回 (平成28年度)

福井県 田中美代子

たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき

第21回 (平成27年度)

福井県 山本 稜

たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時

第20回 (平成26年度)

神奈川県 中嶋恭子

たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剥くとき

第19回 (平成25年度)

福井県 堂島彩愛

たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るととき

第18回 (平成24年度)

熊本県 志賀直子

たのしみは日の射す庭に小豆干す老父母いるを里に見るととき

第17回 (平成23年度)

茨城県 田口久子

たのしみは洗濯物を六人の家族に分けてたたむひととき

第16回 (平成22年度)

岡山県 信安淳子

たのしみは「めんどくせえ」と言いながら肩もむ息子と話するとき

第25回

第23・24回

第16～22回

〈自由短歌部門・テーマ短歌部門・一般短歌部門〉

橘曙覧賞受賞作品

第25回 (令和元年度)

福井県 後藤由美子

亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく

第24回 (平成30年度)

千葉県 小林 功

母の背であの日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている

第23回 (平成29年度)

長崎県 牧野弘志

この道がバージンロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

第22回 (平成28年度)

福井県 岩崎大朔

十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う

第21回 (平成27年度)

千葉県 河野雅子

車椅子に息子を乗せし老夫婦鳴の群れるる岸辺押しゆく

第20回 (平成26年度)

千葉県 河野成実

ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ

第19回 (平成25年度)

福井県 北野よしえ

台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる

第18回 (平成24年度)

千葉県 佐藤清子

汲みおきの水とり代える幸せを震災前は思い及ばず

第17回 (平成23年度)

富山県 村沢清人

あるだけの飼料を撒き終え被曝地の養豚農夫去り難く泣く

第16回 (平成22年度)

長崎県 北村麻衣

笹の葉の中に揺れてる願い事就活の夏星青々し